

# mini column

## 楓の仲間

—イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ、ミツデカエデ、ヤマモミジ(カエデ科)—

盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

カエルの手に見立ててカエデ、赤ちゃんの手に例えたモミジなど、名の由来に遊び心がある楓の仲間は、春秋の美しさが古来から親しまれている種です。今回は特徴のある楓の話をしします。

**イタヤカエデ**は、25m程の高木で開葉前に黄緑色の花をつけます。葉は5~7裂に浅くさげカエル手を連想させます。変種にアカイタヤ、エゾイタヤが分類され、由来は葉の広がりや板屋根に見立てたこと。

**ハウチワカエデ**は、カエデ類で葉が一番大きく、拳状に浅く9~11裂し重鋸歯がある。樹高は15mほどで樹皮は赤灰色。由来は葉の形を鳥の羽で作った団扇に見立てたこと。

**ウリハダカエデ**は、緑色に黒や白の鹿の子模様があり樹高10mほど、葉は3裂し開葉と同時に

総状で黄緑色の花を付ける。由来は樹皮の模様をマクワウリに見立てたことから。

**ミツデカエデ**は、カエデ科で珍しい3出複葉で、赤い葉柄と卵形の小葉が特徴で、由来も葉が「三出」なことから。

**ヤマモミジ**は、樹高15m程で樹皮は灰色、葉は深く7~9裂し重鋸歯がある。分布は日本海側に多いが、東北では太平洋側に多いオオモミジと混成しています。

モミジの由来の一説には「揉んで染め出す」の転化とも言われていますが、私としては愛らしさを感じる「カエルや赤ちゃんの手」説がしっくりします。衣を更に着るといわれる如月もあとわずか、草木が茂るいやおい(弥生)を樹木達も楽しみにしています!



イタヤカエデ



ハウチワカエデ



ミツデカエデ



ヤマモミジ



ウリハダカエデ